

# Glocal Tenri

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.25 No.5 May 2024

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University



5

## CONTENTS

- 巻頭言  
神殿をさらに見学する  
／井上 昭洋 ..... 1
- 天理教の異文化伝道と「文化」の「翻訳」  
(11)  
本連載における「翻訳」について⑩  
／加藤 匡人 ..... 2
- 台湾の社会と文化—天理教伝道史と災害民族誌 (19)  
戦後の統治者の交代と社会混乱  
／山西 弘朗 ..... 3
- 社会福祉からみる現代社会—天理教の社会福祉活動に向けて— (14)  
子育て支援における天理教の社会福祉活動 (2)  
／深谷 弘和 ..... 4
- イスラームから見た世界 (28)  
イスラームの人間観②  
／澤井 真 ..... 5
- コロンビアへの扉—ラテンアメリカの価値観と教えの伝播— (33)  
7. コロンビアの非日常 2 その1  
バカンスとその時期について  
／清水 直太郎 ..... 6
- 天理参考館から (35)  
麻疹をあなどるなかれ  
／幡鎌 真理 ..... 7
- 2024 年度公開教学講座のご案内／新刊紹介 ..... 8

## 巻頭言

### 神殿をさらに見学する

おやさと研究所長 井上昭洋 Akihiro Inoue

前号では、天理大学のフィールドワーク方法論の授業での神殿見学の実習について紹介した。人は知識や経験、立場が異なれば、同じものを見ていると同じように見えていない。信者の学生と未信者の学生とは、見学レポートの内容に違いが出てくるのもそのためだ。信者の学生で神殿が二階建ての建物であると記す者が皆無なのは、参拝をする場所が一階であるという無意識の思い込みがあるからだろう。もしくは、トイレや下駄箱のある階下を高床式建物の床下と捉え、礼拝場を一階とみなしているからかもしれない。いずれにせよ、神殿は信者には高床式?の一階建て、未信者には二階建てに見えるわけである。

神殿見学の実習で、信者・未信者を問わずほとんどの学生が指摘するのが、回廊の両側にずっと連なって見える白いハート型の模様である。回廊の梁と柱の接合部の補強を兼ねた装飾板にハート型に彫られ白く塗られた模様が施されており、それが回廊の先までずっと続いて見える。これを学生たちは「廊下の両側に白いハートマークが並んで見える」と記すわけである。信者であろうとなかろうと、神社建築や日本古来の文様に詳しくなければ、それはただのハート型の模様であって「猪目」ではない。「猪目」とは、神社仏閣で火伏の魔除けとして建物の様々な箇所につけられるハート型の文様のことである。近頃は寺社がそれを売りにして、テレビ番組や SNS で話題になることもあるようだ。

神殿と教祖殿の屋根の色が異なることを指摘する学生はいても、「千木」の形状が異なることまで指摘する学生はいない。「千木」とは社殿の屋根の先端に交差して突き出ている角のような部分のことである。神殿や教祖殿は神社の社殿と異なり瓦葺きなので、鬼瓦に梅鉢、千木、鯉木のデザインが施されている。その千木の形が神殿と教祖殿で

は異なっているのだ。神殿の千木はその先端を垂直に削っている「外削ぎ」であり、教祖殿のそれは水平に削っている「内削ぎ」になっている。外削ぎは男千木、内削ぎは女千木と呼ばれることもあるが、それは前者が男神を祀った社殿に、後者は女神を祀った社殿に用いられるとされるからだ。しかし、必ずしも祭神の性別によって千木の種類が決まるわけではないようで、一つの説にすぎない。

参与観察においては、当たり前に見えるものを見たまに記録することが求められるが、コツを掴めば注意を払うべきポイントに注力できるようになる。神社建築の知識がなくても、見たままを愚直に書き留める癖がついていれば、神殿と教祖殿の屋根の色の違いに気づけば、続いて「他に違う箇所はないか?」と目を凝らし、屋根の上の角のような部分の形状が異なることに気づくはずだ。そうして「神殿と教祖殿とは鬼瓦の角の部分の形が異なる」と記すことができれば、レポートの得点も高くなる。また、実際の調査であれば、関係者に「なぜ違うのですか?」と尋ねれば、その理由を説明してもらえるだろう。フィールドワークは、見たままを書き留めた事柄から生まれる素朴な疑問を起点としてスタートするのである。

さて、未信者の神殿見学者でも神社建築について知識のある人であれば、神殿、教祖殿の鬼瓦のデザインに目をやって、男千木・女千木の説に基づき「天理教の神様は男神ですか?」、「教祖は女性ですか?」と尋ねてくることがあるかもしれない。後者の質問に答えを窮する信者はいるはずもないが、前者の質問に対しては、どのように答えれば良いだろう。男千木・女千木の解釈は俗説であると退けたところで、男神か否か?という質問は残る。未信の人にも分かりやすく説明できるようにしておきたい。